

平成23年行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>	鳥獣保護基盤整備費	<b>担当部局庁</b>	自然環境局	<b>作成責任者</b>				
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成10年度 (一部、平成19、21年度)	<b>担当課室</b>	鳥獣保護業務室	室長 宮澤俊輔				
<b>会計区分</b>	一般会計	<b>施策名</b>	5-3 野生生物の保護管理					
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	鳥獣保護法第4条	<b>関係する計画、通知等</b>	鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指針 油等汚染事件への準備及び対応のための国家的な緊急時計画					
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	鳥獣保護管理の適切な推進に向けて、 ①全国レベルでの統一標準手法を用いた鳥獣生息状況に関する科学的データの収集・モニタリング ②油流出事故発生時における水鳥の救護のための技術者育成を行い、人材及び情報収集に関する体制基盤を整備することを目的として実施する。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	上記について、以下の通り実施 ①全国60箇所の鳥類観測ステーション等において鳥類の捕獲調査による基礎データや、各都道府県や環境省の地方出先機関における捕獲許可業務等から収集されるデータの集約等を実施。 ②油等汚染事故発生に際しての水鳥救護に係る技術者研修年4回実施。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	70	62	61	52	38	
		補正予算	-4	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	66	62	61	52	38	
	執行額	75	60	62				
執行率(%)	114%	97%	102%					
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	野生鳥獣の適正な保護管理と狩猟の適正化を目標としており、これらを定量的に数字で評価することは困難。		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	野生鳥獣の適正な保護管理と狩猟の適正化を目標としており、これらを定量的に数字で評価することは困難。		活動実績 (当初見込み)	-	-	-	( )	( )
<b>単位当たりコスト</b>	-		算出根拠	-				
<b>平成23・24年度予算内訳</b>	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	鳥獣等保護費	28	14	野生鳥獣保護管理情報システムの見直しによる減				
	鳥獣等保護事業委託費	23	23					
	土地建物借料	0.8	0.8					
	各所修繕	0.2	0.2					
	計	52	38					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>①科学的で計画的な鳥獣保護管理の推進の基礎となる情報であり、引き続き適正に推進し、業務の効率化、充実化を図る。          ②本事業によって、都道府県職員や動物園・動物病院の獣医師等に対して、油污染事故が発生した際の適切な対処を実施するための技術を伝達することができた。緊急時について、より必要かつ充実した対応ができるよう、引き続き研修等に取り組むとともに、研修対象者を見直して研修生の増加による業務の効率化を図る。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>長期に渡り継続して実施していることから、効果的な事業実施に努めるべき。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<p>野生鳥獣保護管理情報システムの見直しを検討することにより概算要求額を減額。</p>		
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
-			

環境省 62百万円

請負業務の企画・指導監督

【請負・一般競争】

A. (財)自然環境研究センター  
14百万円

科学的・計画的な鳥獣保護管理  
を効率的に推進するための情報  
システムの検討・運用

【再委任】

D. 富士通エフ・アイ・ピー(株)  
6百万円

WISのプログラム改修等

E. マップコンシェルジュ(株)  
1百万円

マッピングシステムのプログ  
ラム改修

【請負・公募 他】

B. NPO野生動物救護獣医師協会(8機関)  
12百万円

油汚染事故に係る水鳥救護の支援及び技  
術研修等

生物多様性センター  
36百万円

【委託・随意契約】

C. (財)山階鳥類研究所 等  
36百万円

渡り鳥の移動経路等を調べるた  
めの鳥類標識調査  
標識調査に必要な足環の購入

資金の流れ  
(資金の受け  
取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

A.(財)自然環境研究センター			E.マップコンシェルジュ(株)		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	平成22年度野生鳥獣保護管理情報システム運用事業	7	外部委託	マッピングシステムのプログラム改修	1
計		7	計		1
B.NPO野生動物救護獣医師協会			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	平成22年度水鳥救護研修・情報整備事業	9			
計		9	計		0
C.(財)山階鳥類研究所			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	野生鳥獣情報整備事業	36			
計		36	計		0
D.富士通エフ・アイ・ピー(株)			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
外部委託	WISのプログラム改修等	6			
計		6	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

## 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	効率的に推進するための情報システムの検討・運用	14	1	95.2%

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	NPO野生動物救護獣医師協会	油汚染事故に係る水鳥救護の支援及び技術研修等	9	公募	-
2	都市環境整備株式会社	水鳥救護研修センター清掃業務	0.9	随意契約	-
3	日野市	水鳥救護研修センター市有地賃付料	0.6	随意契約	-
4	東京電力	水鳥救護研修センター電気料金	0.6	随意契約	-
5	セコム株式会社	水鳥救護研修センター警備保安業務	0.4	随意契約	-
6	日野市	水鳥救護研修センター維持費	0.1	随意契約	-
7	東京都水道局日野サービスステーション	水鳥救護研修センター水道料	0.03	随意契約	-
8	株式会社関野商事	水鳥救護研修センターガス料	0.02	随意契約	-

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)山階鳥類研究所	野生鳥獣情報整備事業	36	随意契約	-

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	富士通エフ・アイ・ピー(株)	WISのプログラム改修等	6	-	-

E

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	マップコンシェルジュ(株)	マッピングシステムのプログラム改修	1	-	-